

第1回「向こう三軒両隣り防災懇親会」議事録

記録：IDPT 長谷川浩章 (3-2-2)

- ・開催日時：平成29年6月11日（日）16：00～19：30
- ・場所：高尾台町会会館
- ・参加者：(以下敬称略)

	IDPT メンバー		班長			
Table1	橋場健次	河原美枝子	1-1-1 織田	1-1-2 小竹	1-2 安島	1-3 江波
	北森晋	清水恵子	1-4 間加田	1-5 山崎	1-6 辻本	
Table2	毛利房雄	天野正英	1-7-1 山瀬	1-7-2 青山	1-8 上提	1-9 石田
	竹内陽子	長谷川玲子	1-10 川縁	2-1-1 早川	2-2 橋本	2-4 田畑
Table3	山原伸二	高山和枝	2-5 太田	2-6 米倉	2-7 吉野	2-8 岡
	清水義博	川原利治	2-9 本多	2-10 福島	2-11 泉屋	
Table4	川合雅文	長谷川浩章	3-1-1 吉野	3-1-2 山田伸介	3-1-2 山田とき美	3-2-1 高橋
	谷内完予	出口佳代	3-2-2 竹内	3-2-3 浜野	3-3 出口	

以上 45 名

・会議次第

- 16：00～16：05 開会の挨拶：橋場健次
- 16：05～16：10 高尾台町会「自主防災会」の説明
- 16：10～16：15 「向こう3軒両隣り防災懇親会」事業の経緯説明
- 16：15～16：25 啓蒙ビデオ、「稲むらの火」、「森本富樫断層（NHK ニュース）」視聴
- 16：25～16：40 懇親会の進め方&各テーブルのメンバー紹介
- 16：40～17：15 各テーブル毎の意見交換 Part1
- 15分間休憩（懇親会準備）
- 17：30～18：40 各テーブル毎の意見交換 Part2
- 18：40～19：10 各テーブル毎の意見発表

【出された意見、質問事項】

- ・向こう三軒両隣り活動を進める為には班という区分で縛らない方が良いという意見と、むしろ班単位で活動した方が良いという、双方の意見がでた。
- ・各個人・家族レベルでの防災意識の低さが目に付く。
- ・近隣との付き合いがなく人集め自体が難しい。
- ・班内の世帯構成（家族構成含む）がわからず、知る手段もない。
- ・被災した際の1つ目（最初）のアクションがわからない。
- ・社会的弱者の把握が難しい。（町内行事でも顔を合わせる機会がほとんど無いため）
- ・班単位での人の集め方、告知の方法等がわからない。
- ・避難拠点となっている高尾台中学校のキャパは大丈夫？（市へ申請している世帯数と実世帯数の大きな乖離）
- ・被災時の家族内での連絡手段は決まっている？
- ・防災無線のデジタル化により個人での情報収集力を上げられないか。
- ・被災時に工大生（アパート暮らし）の若い力を貸してもらうための地域（町会）としての協定は？
- ・自主防災会での各班長さんの役割に対する意識がなく、意識させる為の活動（気づき）も少ない。
- ・班長は少ない情報の中で、どこまで責任を負う必要があるのか。
- ・各丁目毎の温度差（新しい世帯が多い地域と古くからの世帯地域）があり、同じ説明会（懇親会）の中では共感できないことがある。（世帯情報提出に対する抵抗感があるかないか）
- ・IDPTからの説明会・案内については丁目単位より更に細分化して開催してはどうか。
（各地域ごとの特性に応じて活動に対するアプローチを変えるべき）
- ・防災アンケートをとり、家族内での防災に対する意識レベルを再確認し、次のアクションへ繋げる。
- ・避難所での揉め事の一番の理由は相手の顔を知っているか知らないかでその程度は決まる為、とにかく挨拶運動からはじめることが第1歩。

最後に、今回の会議・懇親会をスタートさせたこと自体が成功への第1歩であり、色々と課題が上がってきたことは一つの成果である。

今後、IDPT（組織）としてそれらの課題に対し精査を行い、どのように次のアクションに繋げるかは十分に検討する必要がある。

一方で個人（家族）としてどのように防災に対して向き合っていくか考えていく為の機会作りも必要となる。

以上